

■はじめに

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）は1946年11月に設立されました。

1945年11月に採択されたユネスコ憲章の前文には、

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」とあります。

ユネスコの活動は、貧困・紛争・女性などの理由で、教育を受けられない人々のために、『世界寺子屋運動』や『世界遺産活動』、『未来遺産運動』などを行っています。

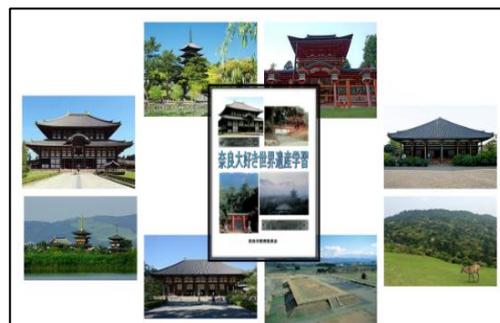
日本におけるユネスコの活動は、ユネスコ憲章の理念に共感し、様々な活動を行う民間の組織である日本ユネスコ協会連盟が中心となって展開しています。



■奈良市でのユネスコ活動の取組

① 世界遺産学習

奈良市では、世界遺産を通して、子どもたちの学びをより深みのあるものにしたいと考え、世界遺産学習を奈良らしい教育の中核において進めています。世界遺産学習は子どもたちに単に世界遺産そのもののことだけを学ばせることが目的ではありません。それぞれの時代で遺産を大事に思い、守り伝えてきた人々の営みや願いも子どもたちに汲み取らせたいと考えています。



② 平和の鐘

奈良ユネスコ協会の活動の一つとして、「平和の鐘*1」があります。今年度は、撞鐘に協力いただいた30の寺院で、8月6日は197人、9日は193人、合計390人の子どもたちが参加してくれました。また当日は、奈良教育大学ユネスコクラブの学生も協力してくれました。

1888（明治21）年6月5日に、フェノロサが市民の前で「奈良は日本のローマであります」と演説した舞台で有名な浄教寺では、参加された奈良ユネスコ協会の会員の方が、

「今年の平和の鐘は近隣の3つの小学校から子どもたちが多く参加していた。中には初めて鐘をついて、平和のことを考えたと言っている子どももいて、そういう体験を通じて伝えられることがあると改めて思った」と大変喜んでおられました。

③ 「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」

この絵画展では、子どもたちが、地域の文化財や自然の大切さに気付き、かけがえのない身近な「たからもの」として未来へと引き継ぐ気持ちや、ふるさとを愛する心を育てることを願

っています。このことをとおして、奈良市の教育が大事にしている、奈良のまちに誇りをもち、それが奈良の子どものアイデンティティになればと思います。今年は、市内の小中学生から、261 点の応募がありました。

④ ユネスコスクール

奈良市では、現在、幼稚園が 3 園、こども園が 1 園、小学校で 17 校、中学校は 11 校の 32 校園がユネスコスクールに加盟しています。近畿地区の幼・小・中学校の加盟校は全部で 81 校園あります。それぞれのユネスコスクールでは、世界遺産も含め、地域とのつながりを大切にしてい、「自分たちが未来を作っていく」という意気込みをもっていろいろの活動に取り組んでくれています。

■SDGs とユネスコ活動



SDGs は 2015 年の国連サミットで採択された、貧困や環境、エネルギーなどの世界が掲げる課題に対して、2030 年までに達成すべき目標を、17 の項目にまとめたものです。

それぞれの目標の達成のためには、政府や企業だけでなく、我々一人一人が意識をして取り組む必要があります。

こうした SDGs の内容は、来年度から順次完全実施となる学習指導要領にも以下の文章で表されています。

一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

この「持続可能な社会の創り手となることができるようにする」という文言は、ユネスコが提唱する SDGs と合致するところであり、学習指導要領においても持続可能な社会の創り手を育ていくことを求めています。

* 1 平和の鐘

昭和 60 年の 12 月（1985.12）に奈良市議会で決議された「非核平和都市宣言」の主旨を踏まえ、世界の恒久平和を祈念して、広島、長崎への原爆投下の日時に合わせて市庁舎の屋上（塔屋）にある「平和の鐘」を撞き鳴らしている。